

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902583
法人名	有限会社 彩雅舎
事業所名	グループホーム観音崎
訪問調査日	平成19年12月11日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471902583
法人名	有限会社 彩雅舎
事業所名	グループホーム 観音崎
所在地	239-0811 横須賀市走水1-6-3 (電話) 046-841-7354

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年11月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	18 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 18 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	6 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	37,800 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	420 円
	夕食	580 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1400 円			

(4) 利用者の概要(11月29日現在)

利用者人数	23 名	男性	6 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘寿クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームのオーナーは施設長ご夫妻、施設長は奥様の方、管理者はご子息と云う典型的な単体ホームである。海岸砂浜を基礎に鉄筋5階建てで、1Fが海岸下道路への出入り口、2, 3, 4Fが各9人の3ユニット、5Fが国道への出入り口となっている。今回、5Fの駐車場を改良してエキササイズルーム兼ミーティングルームが増設されていた。270度オーシャンビューのこの部屋は多目的に利用可能であり、エアロバイクなどのエキササイズ機器も設置し、利用者もここを利用している。前回は2ユニットのみの開所であったが、今回は3ユニット全てが開所されていた。入居者にADLの差が出始めているので、フロア別に同じ程度の人を移して集める試みを始めている。2, 3, 4Fが同じ間取りであることを利用し、混乱が無いように、ご家族の同意も得て同じ位置の部屋への移動を心がけている。同程度の人と過ごすことで例えば嫌がっていたトイレ介助を受け入れるなど良い面も出ている。ケアマネは新しい人が4月から新任し、ICFを基礎とする方式で3ユニットを統括し、ホームに合った計画を実施中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、この1年間は地域との関わりを深める活動に重点を置いて取り組んだ。前述のように5Fにオーシャンビューの部屋を増設したが、この部屋を利用してお茶をやる利用者さんを中心として「野立て」を行い、地域の方をお招きして茶菓の接待を楽しんで頂いたり、ホームの夏祭りなどの行事を企画して参加を呼びかけて楽しんで頂くなどで近隣との関わりが深まったと感じている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価では職員に意見を聞くことでの纏めをしたが、ケアマネジャーが新任であることもあり、3ユニットすべて開所したこともあって、職員はじめ管理者、ケアマネジャーが改めて自己を振り返ることが出来、有意義であった。外部評価の結果は真摯に受け止め、改善点のピックアップをし、取り組んで行く予定にしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は横須賀方式で定期的に行っている。ブロックは天津地区で地域包括支援センターは近所の「シャローム」の中にある。民生委員は横須賀市民生委員会会長が来てくれていて、その関連でホームの見学が増えている。横須賀市では来年度から年2回は現状の横須賀方式の運営推進会議を残し、あと4回はホーム独自の運営推進会議を行うよう通達を出している。これからメンバーの選考と就任のお願いをして行く予定であるが、関係は良好なので問題は無いと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は協力的で良く来てくれているが、比較的来訪の間隔の空き気味のご家族には、季節の変わり目に衣類の補充を頼んだり工夫して月1回は来て頂けるよう仕向けている。ご家族によるイベントの協力、手芸ボランティアの協力、出入り業者の協力など頂き喜んでいる。ターミナルに至るケースでは、その時点、時点でご家族、医師との3者の連携を取りながら対応したケースもあり相談が重要と考えているがやはりご家族の協力が大前提である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>学校関係では福祉体験学習で天津中、武山中の生徒を受け入れている。また、湘南学園の福祉クラブの高校生の生徒さんが月1回来てくれて調理をしてくれたり、一緒に折り紙をしたりしてくれている。ホームのごみ処理に関しては、自治会長さんが市に話してくれ、ゴミ収集の便宜を図って頂き感謝している。ボランティアではキーボード持込で歌の方が来て下さる他、協力頂き感謝している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者である施設長が独自の理念を掲げ、全職員がその理念を理解している。地域には古い土地としての独自の伝統があり、後発のホームとしてはその伝統を尊重し、節度ある友人に徹しているので大人の隣人関係が保てている。この前提で非常に良く協力して頂いている。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロアに理念を掲示し、常に理念を意識し、その人らしい暮らしが実践出来るよう職員と共に取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内のお祭り参加 ・近隣の小学校の音楽会への参加 ・地域の中学校の生徒の訪問を受け、共に調理をしたり、ゲームをしたり交流を図っている。 ・お茶の点でられる利用者を中心に「野立て」を行い、近所の人に振る舞い好評を得ている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するに当たり、職員はじめ管理者、ケアマネが改めて自己の振り返りが出来た。また外部評価の結果を真摯に受け止め改善点のピックアップをし、取り組みを行っている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は横須賀方式で定期的に行っている。横須賀市では来年度から年2回は現状の横須賀方式の運営推進会議を残し、あと4回はホーム独自の運営推進会議を行うよう通達を出している。これからメンバーの選考と就任のお願いをして行く予定であるが、関係は良好なので問題は無いと考えている。グループホームを一般の方に理解して頂くという取り組みをはじめている。		来年度の新運営推進会議の実施に向けて準備を進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市が主導で実施してきた運営推進会議は天津地区ブロックで、地域包括支援センターは近所の「シャローム」の中にある。民生委員は横須賀市民生委員会会長が来てくれていて、その関連でホームの見学が増えている。これら横須賀市、地域包括支援センター、横須賀市民生委員会会長の関係は来年度も維持継続して行きたい。	○	今後も継続して実施し、もっと機会を作っていきたい
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時に、お話をし、利用者様の日々の状態を報告している。利用者の暮らしぶり及び健康状態は施設長、又はケアマネージャーが適時行っている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情窓口、方法がうたわれている。また、施設内に苦情窓口を設け担当者を置いている。苦情があった場合は内容を十分聞き取り、対処している。ご家族のご意見は運営にの反映するよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	環境の変化に弱い方が多いので、安心して落ち着いた生活が出来るようメンバーチェンジを最小限にとどめる様努力している。人手不足のフロアーが無いようにホーム全体としてシフト調整をしている。質の高い、人材確保がむずかしく、確保に苦慮している。	○	今後も質の高い、人材の確保と教育に努めて行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で各ユニットリーダーが各職員のスキルアップを目指し個別に介護技術など指導している。また、横須賀市による研修、セミナーなどへの参加を呼び掛けている	○	今後、更に質の向上を図る為、定期的に職員全体合同で介護技術等の講習会を内部で行いたい。介護技術のばらつきについても内部公衆を行い介護の統一化に努めて行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市グループホーム連絡会、同会の勉強会への参加、天津地区ブロックのグループホーム同士の交流などを大切にし、情報の交換とレベルアップに努めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設内を十分に見学していただき、既入居者と共にお茶を楽しんでいただいたりして雰囲気味わっていただいたりしている。一般の方にはお茶の点でられる利用者を中心に「野立て」を行い、近所の人に振る舞い好評を得ている。	○	5Fの駐車場を改良してエキササイズルーム兼ミーティングルームを新設したので、会員を募ったティールームなども企画してみたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビのニュースを話したり、昔話をしたり、調理のお手伝いをしていただいたりしている。認知症の進捗度合いにより、同じ程度の方を同じフロアで過ごして頂く移動を試行してみた。2F, 3F, 4Fが同じ間取りなので同じ位置の部屋への移動を配慮した。トイレ誘導が自分だけだったので介助拒否の方が介助を受けるようになるなど良い面が見られた。		今後も慎重に、継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話し合いの中で、希望されていることを掴んでいくようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との面談・本人の希望を聞き、カンファレンス会議を実施した上で、ケアプランを作成している。ケアプランはICFのものをベースとして独自の方式を作り実施している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月で、見直しをしている。変化があった場合は、その都度対応している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	前術のように利用者の身体状況の変化に応じて、フロア変更、居室変更など、利用者本位の立場で、家族の了解を得ながら検討し、実行している。		今後も慎重に、継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制の認定を受け、総合内科専門医の往診を毎週2回(火曜・金曜)・歯科医の往診・訪問看護が週に1回受けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族・職員との中で情報の共有を図っている。ターミナルケアに転換した場合は主治医の指示の下適切なケア方法を実施している。家族・主治医・施設長・ケアマネジャー・フロア長が話し合いの場を持ち、方針を決定している。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応が無いよう配慮している。記録等の個人情報は鍵のかかるロッカーに記録は保存している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間など、一定のルールを守りつつ、利用者のペースに合わせて実施している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、配膳の手伝い等できる範囲でしていただいている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルの状態などで、体調に合わせて入浴の声かけをしている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出身地の名物「ずんだもち」とか、戦後の食料不足の折の「にらせんべい」とか、話に出てきたものを講師になって指導していただいて皆さんで作ったり、茶道のできる方々で、「野点」をして、ご近所の方々に振舞ったりしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ、散歩にいらしていただいている。歩行の不安定な方は、『百景ルーム』に行ってもらっていただき、お茶やコーヒーを飲みながら気分転換をしていただいている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入りが自由に出来るよう、見守りに注意したケアを心がけている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をもっと工夫してやっていきたいと思っている。個別の運営推進会議は横須賀は来年度からであり、防災はテーマの1つと考えている。	○	来年度の新運営推進会議の課題として準備を進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況の変化に応じて、責任者の指示により、「食べやすく、飲みやすく」で支援している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成した作品や、外出時の写真等を貼り家族に見ていただいている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長年使っていた物を持ち込んでいただき、ご家族と相談させていただき、危険の無い様工夫をして配置していただいている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 観音崎
所在地 (県・市町村名)	239-0811 横須賀市走水1-6-3
記入者名 (管理者)	三原 淳治
記入日	平成 19 年 11 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者である施設長が独自の理念を掲げ、全職員がその理念を理解している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	フロアに理念を掲示し、常に理念を意識し、その人らしい暮らしが実践出来るよう職員と共に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	在宅での生活をそのままホームでも実践して行かれるよう家族や地域の人に理念の理解を求めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	定期的な催事を行い、近隣の方、及び団体に参加を呼び掛けている。 例 ・納涼祭(花火大会見学)への参加、ご招待。 ・クリスマス会への参加、ご招待 ・その他お茶会など		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内のお祭り参加 ・近隣の小学校の音楽会への参加 ・地域の中学校の生徒の訪問を受け、共に調理をしたり、ゲームをしたり交流を図っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	地域の老人会に声かけをし、ホームにお招きして、一緒にお茶を飲んだり、歌を唄ったりして交流を図りたいと考えている。
---	--	--	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するに当たり、職員はじめ管理者、ケアマネが改めて自己の振り返りが出来た。また外部評価の結果を真摯に受け止め改善点のピックアップをし、取り組みを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームを一般の方に理解して頂こうという取り組みをはじめている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	もっと機会を作っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	成年後見人制度は、もっと詳しく学べる機会を持ちたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者の行動見守りや声かけ等に注意し、行き過ぎが無い様に気をつけている。 ・フロアにて虐待に対する話題(テレビなど)があった時、職員同士で話し合い自分たちに同じ事がないか確認を合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、施設長が契約書の内容を口頭、又は文書にて説明し、十分理解、納得して頂けるよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の利用者の意見に耳を傾け、職員はケアマネージャーや、施設長に報告して改善策を図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時に、お話をし、利用者様の日々の状態を報告している。 利用者の暮らしぶり及び健康状態は施設長、又はケアマネージャーが適時行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情窓口、方法がうたわれている。また、施設内に苦情窓口を設け担当者を置いている。苦情があった場合は内容を十分聞き取り、対処している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者や家族の意見・要求をその都度施設長に報告している。 事業所内部に組織図を設け職員の意見、提案はそのルールに基づいて行われている。	○	職員の全体会議などの時間をもっと取り入れたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	定期的に会議を開催し、職員の配置、勤務時間など随時検討をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	環境の変化に弱い方が多いので、安心して落ち着いた生活ができるようメンバーチェンジを最小限にとどめる様努力している 人手不足のフローアが無いようにホーム全体としてシフト調整をしている。	○	質の高い、人材確保がむずかしい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	ホーム内で各ユニットリーダーが各職員のスキルアップを目標として、定期的に介護技術の研修を行っている。		質の向上を図る為、定期的に職員全体合同で介護技術研修の講習会を実施している。

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>指し個別に介護技術など指導している。 また、横須賀市による研修、セミナーなどへの参加を呼び掛けている</p>	○	<p>等の講習会を内部で行いたい。 介護技術が各自でばらつきがあるので介護の統一化を図りたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流する機会を少しずつ広げている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>健康器具を置き、身体のリフレッシュを図ったりしている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自のライフサイクルを尊重した勤務表を作成している。 個々の能力の応じた勤務体制をとっている。</p>		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>できるだけ、お話を聞くようにしている。 入居相談の段階からその方の希望、入居に至るまでの背景の把握をしている。時間をかけアセスメントを十分行っている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の訪問が多いので、来所の折、お話を聞くようにしている。 十分な時間を確保し、不安な事、求めている事など何う機会を設けている。</p>		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>要望に少しでも近づける様努力している。 本人と家族との希望が必ずしも一致していない場合がある。 本人と家族のニーズを良く聴き取り、どのような支援が必要か見極める。</p>	○	<p>利用者が認知症という事もあり、利用者の本当のニーズが隠れている場合がある。家族だけの希望を優先せず、本人の希望を根気良く聴き取っていききたい。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設内を十分に見学していただき、既入居者と共にお茶を楽しんでいただいたりして雰囲気を味わっていただいたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テレビのニュースを話したり、昔話をしたり、調理のお手伝いをしていただいたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、利用者の日々の生活の変化等を報告したり、時には本人も一緒に、談笑することもある		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族面会時には、本人が安心して会話できる環境をつくっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や、近所の方の訪問の時には、共に思い出にふれ、話題を共有している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お話しやすい場所・雰囲気作りを心がけている。他のフロアから遊びに見えた友人を快くお迎えし、お友達の輪を広げるお手伝いをしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一部できている。本人に、書く能力等が失われていく中で、なかなか現状は難しい。	○	お便り交換が出来るようにしたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話し合いの中で、希望されていることを掴んでいくようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からも情報を確保する努力をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックや服薬時のお手伝い等で、その日の健康状態を把握し、お一人おひとりの生活リズムを大切に過ごして頂いている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との面談・本人の希望を聞き、カンファレンス会議を実施した上で、ケアプランを作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月で、見直しをしている。変化があった場合は、その都度対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・バイタル表の記入・排泄表・入浴日誌等を活用し、申し送りノートによる情報の共有、確認を図っている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体状況の変化に応じて、フロア変更、居室変更など、利用者本位の立場で、家族の了解を得ながら検討し、実行している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの学生の訪問で、歌を歌ったり、会話を楽しんだりしている。野点をして、地域の方に振舞ったりなどしている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体機能の低下により、車椅子等福祉用具の購入が必要になった時、適切な用具の選択・サービス事業所の紹介を行っている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○ 定期的な会議に出席し、協調できるような体制づくりをしている
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合内科専門医の往診が毎週2回(火曜・金曜)・歯科医の往診・訪問看護が週に一度ある	
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な医師の往診により、適切なコントロールが得られ、認知症の進行が防げている。	
	○看護職との協働	週一回の訪問看護により、利用者の状態が良く把握でき、ア	

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ドバイスや指示を受け、介護にいかしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、直ぐに担当医師に連絡をとり、入院中の治療及び介護に必要な情報提供を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族・職員との中で情報の共有を図っている。ターミナルケアに転換した場合は主治医の指示の下適切なケア方法を実施している。家族・主治医・施設長・ケアマネージャー・フロア長が話し合いの場を持ち、方針を決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアと決定した場合、フロア長を中心とした介護計画を立て、実施している急変時には主治医に連絡をとり、指示を仰ぐシステムが確立されている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅に帰る場合、民生委員との連携等をとっている	○	退去してからも、定期的な訪問等で、メンタル面の支援が出来ればと思う。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	鍵のかかるロッカーに記録は保存している。		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重しつつ、説明をし、納得していただけるよう努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間など、一定のルールを守りつつ、利用者のペースに合わせて実施している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容は2ヶ月に一度、訪問美容を受けていて、カット・毛染め・顔そり等、利用者の希望にあわせておこなっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、配膳の手伝い等できる範囲でしていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや、飲み物等なるべく希望に添える様にしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の都度、清拭・介助のお手伝いをしている		
	○入浴を楽しむことができる支援	バイタルの状態などで、体調に合わせて入浴の声かけをして		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	暑さ・寒さに弱い高齢者の為に、室温が一定になるように空調に配慮している。又シーツ交換等気持ちよく休んでいただけるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出身地の名物「ずんだもち」とか、戦後の食料不足の折の「いらせんべい」とか、話に出てきたものを講師になって指導していただいて皆さんで作ったり、茶道のできる方々で、「野点」をして、ご近所の方々に振舞ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な催事(納涼祭・クリスマス会等)の際金券を発行して、金券でご自分の好きな食べ物を購入していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ、散歩にいらしていただいている。歩行の不安定な方は、『百景ルーム』に行ってもらっていただき、お茶やコーヒーを飲みながら気分転換をいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的な外出を実施している。今年は、お花見や、菖蒲園、江ノ島水族館、八景島シーパラダイス等に出かけました。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特段の事情が無い限り、本人の意思を尊重して、支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	いつでも気持ちよく来所していただけるようにしている。		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	状態不安定の時、ご家族来所時にお話をし、了解を得て同意書作成の上、転落防止をすることがある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入りが自由に出来るよう、見守りに注意したケアを心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒事故が無い様、歩行介助により、ケアしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	鋏等は、目に触れないよう保管に注意し、使用時は見守りをする。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬を防ぐ為、薬袋に名前・朝昼夜等を明記してもらい、服薬介助の際、声に出して確認し、服用していただいている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	申し送りノートや口頭での確認により、事故のないようにしている。	○	救急救命法などの講習をうける機会を実施していきたい。
	○災害対策			避難訓練をもっと工夫してやっていきたいと思っている。

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時、納得、理解していただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルを基準に、申し送り等で、情報の共有、対応している。異変のある時は、直ぐに主治医と連絡を取り、指示を受ける。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書、連絡ノートなどで、情報を共有周知している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表でチェックし、水分補給・食材の工夫・軽い運動など、日常的に予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科医利用や、食後の口腔ケアの介助・義歯の消毒をしている		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況の変化に応じて、責任者の指示により、「食べやすく、飲みやすく」で支援している。		
	○感染症予防	入居の際、感染症の有無を調査している。インフルエンザの予防接種は毎年行っている。手洗いや咳エチケットの徹底もしている。		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種は毎年行っている。手洗い・うがいの励行を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗い、まな板等の消毒を徹底している。食材は、毎日買い出しに行き、冷蔵庫に保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ホールは常に生花を飾り、ホッとする空間を作っている。周りに緑や花を絶やさないようにしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成した作品や、外出時の写真等を貼り家族に見ていただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置により、テーブルを囲んだり、ソファに座ったり自由に出来るようにしている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長年使っていた物を持ち込んでいただき、ご家族と相談させていただき、危険の無い様工夫をして配置していただいている。		
	○換気・空調の配慮	換気は気をつけている。とくに、冬場のエアコンの調節・加湿		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>器等こまめに調節している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食堂・リビングを中心に全てが機能的に設計されていて、歩行不安定な方は手摺を頼りに、廊下を歩行訓練できる。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室は表札を貼り、トイレの利用が難しい方は、自室にポータブルトイレを置き自力を支援した工夫をしている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>園芸を楽しんだり、健康器具を使える百景ルームがあり、散歩帰りにコーヒーを飲んだりできる場所がある。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るい雰囲気と笑顔のある家庭的な温かさの感じられるホーム作りを目指しています。